

$S = S_1 \cup \dots \cup S_k$ を区分的に C^r 級の超曲面とし, f, \mathbf{X} を S を含む \mathbb{E}^{n+1} の領域上の C^0 スカラー場, C^0 ベクトル場とする. このとき, $\int_S f dA$, $\int_S \mathbf{X} \cdot d\mathbf{A}$ を各々,

$$\int_S f dA := \sum_{i=1}^k \int_{S_i} f dA, \quad \int_S \mathbf{X} \cdot d\mathbf{A} := \sum_{i=1}^k \int_{S_i} \mathbf{X} \cdot d\mathbf{A}$$

によって定義する. $\int_S f dA$, $\int_S \mathbf{X} \cdot d\mathbf{A}$ を各々, f, \mathbf{X} の S に沿う面積分という. 特に, $\int_S 1 dA$ を S の超曲面積といい, $\mathcal{V}(S)$, または $\mathcal{A}(S)$ と表す.

問 1.10.1 F を, \mathbb{R}^n の区分的に $C^{r'}$ 級の境界をもつ有界閉領域 E を含む領域 D 上で定義された C^r 級関数 ($r \geq r'$) とし, $\mathbf{x} : D \rightarrow \mathbb{E}^{n+1}$ をそのグラフ曲面, つまり,

$$\mathbf{x}(u_1, \dots, u_n) = (u_1, \dots, u_n, F(u_1, \dots, u_n)) \quad ((u_1, \dots, u_n) \in D)$$

とする. \mathbb{E}^{n+1} 内の区分的に $C^{r'}$ 級の境界をもつ C^r 超曲面片 $S := \mathbf{x}(E)$ を考える. このとき, S を含む \mathbb{E}^{n+1} の領域上で定義された C^0 スカラー場 f と C^0 ベクトル場 $\mathbf{X} = (X_1, \dots, X_{n+1})$ に対し,

$$\int_S f dA = \int \int_E f(\mathbf{x}(u_1, \dots, u_n)) \sqrt{1 + \sum_{i=1}^n \left(\frac{\partial F}{\partial u_i}\right)^2} du_1 \cdots du_n,$$

$$\int_S \mathbf{X} \cdot d\mathbf{A} = \int \int_E \left((-1)^{\sum_{i=1}^{n-1} \delta_i} \sum_{i=1}^n X_i(\mathbf{x}(u_1, \dots, u_n)) \frac{\partial F}{\partial u_i} + (-1)^n X_{n+1} \right) du_1 \cdots du_n$$

が成り立つことを示せ.

1.11 ベクトル解析におけるストークスの定理

この節において, ストークスの定理 (Stokes' theorem) について述べることにする. ストークスの定理にはいろいろなタイプのものがあり, この節で述べるストークスの定理は通常, ベクトル解析の分野においてそうよばれるものである.

定理 1.11.1 (ストークスの定理) $S = \mathbf{x}(E)$ を \mathbb{E}^3 内の区分的に $C^{r'}$ 級の境界をもつ C^r 超曲面片 ($r \geq \max\{r', 2\}$, $r' \geq 1$) とし, $c : [0, 1] \rightarrow \mathbb{E}^3$ を境界 ∂S を与える区分的に $C^{r'}$ 級の単純閉曲線で, $\mathbf{x}^{-1} \circ c$ が反時計回りに進む

図 1.11

ようなもの
ル場 \mathbf{X} に

証明 S

をもつ C^r

1.11.1 を参

く. $C^{r'}$ 曲

c_1^λ

c_2^λ

によって

に $C^{r'}$ 級の

閉曲線で,

$\{1, \dots, l\}$